

「次の100年に向けて…」

工藤 秀俊*



1. はじめに

マツダは、2020年1月に創業100周年を迎えた。お客さまとの信頼関係を強め、従業員や地域に継続的に貢献するためには、永續することこそが企業の使命とも言えるが、100年続く企業は全体の3%にも満たない。一方、日本における100年企業は3万社を超え、200年以上続く世界の長寿企業の約半分は日本に存在するという。その理由は、内乱が少なく平和な地域が多かったことやM&Aなどの欧米とのビジネス慣習の違いなどがあげられるが、日本の長寿企業にはいくつかの共通点がある。それは、①企業理念を愚直に遵守していること、②伝統を守りつつも時代に合わせて変化していることである。以降、この2つの観点からマツダの現状と今後の抱負を述べたい。

2. 守り続けるべきこと、進化させていくべきこと

①企業理念の遵守

長寿企業の多くは、社会や地域貢献を柱とする企業理念を持ち、一貫性ある事業を通じて顧客から信用を得ているという。これは我々の創業者の想いと同一であり、2009年に改定したマツダのコーポレートビジョン（右上記）が目指すところとも一致している。そして2017年、マツダはコーポレートビジョンに沿った技術開発の長期ビジョン『サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030』（右記）を公表し、我々がクルマを造る目的・意義を改めて社内外に示した。

“私たちマツダは、美しい地球と心豊かな人・社会の実現を使命と捉え、クルマの持つ価値により、人の心を元気にすることを追究し続けます”というメッセージには、生き様や真理の追究を精神の修練と捉える“道”

の精神や、他者のために思いやりを持ち情熱を傾けることに生き甲斐を感じる“和”の精神が息づいており、それを走る喜びを中核に据えたクルマの価値で実現しようとする様はマツダの理念・哲学そのものである。

そのコーポレートビジョンはリーマンショック直後の2009年、全社員の想いを揃えるべく改定した

* マツダ株式会社 執行役員 R&D管理・商品戦略・技術研究所担当 Hidetoshi KUDOU

コーポレートビジョン

私たちはクルマをこよなく愛しています。

人々と共に、クルマを通じて豊かな人生を過ごしていきたい。

未来においても地球や社会とクルマが共存している姿を思い描き、

どんな困難にも独創的な発想で挑戦し続けています。

1. カーライフを通じて人生の輝きを人々に提供します。
2. 地球や社会と永続的に共存するクルマをより多くの人々に提供します。
3. 挑戦することを真剣に楽しみ、独創的な“道（どう）”を極め続けます。

サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030

私たちマツダは、美しい地球と心豊かな人・社会の実現を使命と捉え、クルマの持つ価値により、人の心を元気にすることを追究し続けます。



ものであった。だからこそマツダの開発部門や事業部門においては、『人生の輝き』を提供するために『人間中心』でクルマを研究し、『地球や社会と永続的な共存』に向けた本質的な課題解決のために内燃機関の理想燃焼に向けた挑戦を続けている様が、我々の強みであることを共通認識している。

今後も、創業時代から続く大義ある理念・哲学に基づき迷うことなく技術開発を行うと共に、企業風土を更に高めることで、独自性と信用で顧客から選ばれる企業を目指していきたい。

②伝統と変化

長寿企業の他方の特徴は、伝統を守りつつ時代に応じた変化をすることで、時代や世代を超えて選ばれ続けている点である。我々が守るべき伝統は、前述の理念に基づく、しなやかな人馬一体感のあるエフォートレスなドライビングフィール、理想燃焼を追求する超高効率な内燃機関、そして見る人を惹きつけてやまない日本の美意識を体現するデザインなどの顧客提供価値に他ならない。

一方、100年に一度の変革期の今、従来提供価値の正常進化や他社を模倣するような変化に留まってはマツダの存在意義はなくなる。つまり、トレードオフ関係にある伝統と変化のブレークスルーが必要となる。したがって、前述のような最新技術を導入する目的・意義を真剣に考え抜き、理念・哲学に照らし合わせた上で取捨選択してブランド価値を定義すること、言い替えれば、技術や世の中の変化を捉まえてマツダらしさを体現することこそが時代に合わせた変化の必要条件だと考える。

例えば、人間の能力の最大化を基本とし、ドライバーに異常が生じた場合にのみ人命保護を目的として自動走行・停車を行う自動運転コンセプト“Mazda Co-Pilot Concept”は、高齢化社会においても安心・安全な運転を提供できると考える。これこそ人とクルマがひとつでありながら状況に応じて主従の関係を变える究極の人馬一体であり、マツダらしい価値を提供する技術戦略ではないだろうか。

今後はあらゆる技術領域において戦術を磨きあげることで、いかなる時代にも通用するマツダらしさと、いかなる時代変化にも適合できる力を身につけていきたい。

3. それを支える知財活動

前述のマツダ独自性を知財面からサポートすべく、以下に重点をおいて知財活動を推進している。

①戦略技術の強固な特許網構築と、グローバルでの確実な権利化

前述の戦略技術について、特許情報を活用しつつ開発最上流で発明発掘して漏れなく特許出願に繋げている。そして、国内外特許庁との面接審査や纏め審査を活用して確実な権利化を進めている。

②ブランド価値向上に直接貢献する知財活動

ブランド価値を向上すべく、意匠や商標の活動強化に取り組んでいる。特に関連意匠制度や特許を含めた知財ミックスを積極的に活用して、マツダブランドを体現するデザインの保護を行っている。

なお、これらの知財活動を戦略的かつ効果的に行うためには、開発部門や事業部門とのコミュニケーションを密に取ることが不可欠である。この点、マツダは開発部門・事業部門・知財部門の殆どが広島地区に集中しているため、その利点をフルに活用して、最大効率で知財活動を実践している。

4. おわりに

創業100周年は通過点に過ぎないが、マツダに係る全ての人々を幸せにするという大義を脈々と引き継ぎながら誠実なクルマ造りを続けていきたい。結果として、次の100年も存続する企業になればこれ以上幸せなことはない。決して容易なことではないが、マツダ一丸となってやり遂げたいと思う。